

# せいらんそう

社会福祉法人  
芳香会誌  
第16号  
2011年12月発行



平成23年10月30日に開催された「祭りゆうき」で  
オリジナルの青嵐節を披露しました。

## もくじ

## CONTENTS

### 被災地支援活動をととして

活動参加職員の思い・・・2

### 広がる地域との輪、その活動

花と緑の環境美化コンクール  
受賞【上大野地区】・・・3

3R推進功労者等表彰受賞  
【尾崎地区】・・・3

### 高齢者施設トピックス

青嵐荘養護老人ホーム・・・4

青嵐荘特別養護老人ホーム  
・・・4

青嵐荘ケア・アシスタンス  
・・・4

### 地域定着支援センター・・・5

3年目の福利厚生・・・5

芳香会活動報告・・・6

芳香会スケジュール・・・6

編集後記・・・6



この度の東日本大震災において被災されました方に心よりお見舞い申し上げます。  
一日も早い復旧・復興をお祈りしております。

# 被災地支援活動をとおして

## 活動参加職員の違い

### 【芳委会 被災地支援活動の統括】

三月期末より開始した支援活動も九ヶ月目を向かえまして。さる十一月三日（木・祝日）には、再度南三陸町を視察訪問しました。現地の状況は、七月期に訪問した時とさほど変わらず、今後の自治体の再生のあり方を懸念するばかりです。



さて、この支援活動を継続していると、当事者や地元の関係団体、他のボランティア団体の方々と関係が作りあえ、その輪が広がります。そのことはまた大きな喜びともなり、活動を継続する機動力ともなります。もう一方では、各職種団体への協力参加も継続しています。今後は一層、社会福祉士や精神保健福祉士等が行う、個人々人への支援が重要になってくることは否めません。【形づくりの難しい支援】そのことを実践し続ける法人でありたいと考えます。

最後に、小さな力の積み重ねこそ《生きる力》の蓄えと信じています。そして被災地のみなさんの笑顔を取り戻せる日を切望します。

芳委会 理事長 宇留野光子

### 【災害支援管理栄養士の派遣】

震災発生後、被災地では多くの方が避難所等での非日常の生活を強いられました。そこでは炊き出しや食糧支援が行われたものの、空腹を満たすことが第一義であったため、徐々に被災された方々の栄養不足が顕在化してきました。このような状況下で、日本栄養士会は災害支援管理栄養士の派遣を行い、栄養支援活動を開始されたため、芳委会でもこの活動の趣旨に賛同し、四名の管理栄養士を派遣致しました。

六月十二日に宮城県石巻市に入り、翌十三日から三日間、昼食の提供を中心とした支援活動に従事しました。

現地入りする途中、芳委会独自で行っている避難所への真空調理食材の提供のために南三陸町志津川高校避難所に立ち寄りしましたが、被災地の光景があまりにも凄まじく、言葉を失いました。



しかし、活動場所である石巻市桃生福祉避難所です。実際に被災された方を目の前にした時に、その生きる力に感動し気持ちを入れ替えました。そして、パンやおにぎり、仕出し弁当しか食べていない方々に少しでも家庭的な雰囲気を感じていただけるよう、手作りの食事を瀬戸物の器に盛り付けて提供し、栄養、特にたんぱく質やビタミンの不足を補うために、補助食品や果物を献立に入れるなどの工夫をしました。今回の支援活動を通じ、地道で継続的な活動が必要であると感じました。今後も様々な形で支援を継続していきたいと思えます。

青嵐荘療育園 幸田管理栄養士

### 【社会福祉士による被災地支援】

芳委会には二十三名の社会福祉士を有する職員が在籍しております。

この社会福祉士の職能団体である日本社会福祉士会も宮城県、岩手県から支援要請を受け、被災エリアの地域包括支援センターの後方支援を目的に社会福祉士の派遣を行っております。

芳委会は、日本社会福祉士会の派遣の仕組みを活用し、これまでに八組十六名の社会福祉士の派遣するとともに、今後も派遣を継続していく予定です。

芳委会被災地支援第四陣として九月八日から五日間、石巻市渡波地域包括支援センター（宮城県）での支援に参加させていただきました。

五日間の活動期間中、現地の地域包括担当者の指示のもと、派遣されたもう一名の職員とペアを組み、住宅地図を見ながら対象地域の住宅を一戸ずつ訪問し、被災状況を確認などを行って参りました。

被災地では、支援を受ける対象者のみならず、支援をする専門職も「利用者の家がなくなっている」と思うと訪問することができない」等、精神的なダメージを負っており、業務を肩代わりするのみならず、精神的な支援も必要とされていきました。

震災から半年が経過しており、地域全体が少しずつ復興に向けて歩を進めておりましたが、そのような時期だからこそ、被災された皆さんの自立した生活に向けて、福祉専門職の支援の必要性を強く実感しました。



青嵐荘療育園 木立課長



## 広がる地域との輪、その活動 「地域づくりを意識して」 No.4



当初、ご利用者の活動の一環として行っていたリサイクル活動を平成二十年度、芳香会全体に広げました。

現在、「自分達の地域を自分たちの手で作る」という考えのもと行っている、地域の方との協働活動に、リサイクル活動の収益を役立てています。そして、これらの事により、大きな輪が出来ます。



活動は、芳香会結城地区においては、クリーニンググリーン作成を開始、今年度で三年目を迎えます。当初、ご利用者と職員での活動だったのが、結城市環境美化パートナーシップへ参加登録をし、結城市協働推進のご協力のもと、隣高校等のボランティア、また地域住民の皆様にもご参加頂き、現在では百名を超える大規模なものに進化しております。尾崎地区では、子供会や中学生との清掃活動、上大野地区では近隣小学生との花壇整備を行っています。

また、ご利用者が育てた花をご利用者の手でリサイクルご協力者へ届ける「ありがとうフラワー」の配布先は十八箇所から三十箇所を増えました。ご利用者も配布先での交流を楽しんでいます。

皆様のご理解ご協力に感謝していただきます。さらにこの輪が大きくなるよう継続していきます。今後ともご協力をお願い致します。



## 花と緑の環境美化コンクール 受賞「上大野地区」

### 受賞「上大野地区」



今年で二度目となる上大野小学校との合同植栽活動が五月に行われました。震災からまだ日も浅く、日常生活に不安を感じていながらも、子ども達の笑顔や元気な顔に励まされながらの活動となりました。参加されたご利用者も、苗のやりとりなどで子ども達と触れ合う機会に、笑顔がみられていました。

その後、上大野地区事業所の職員にて、輪番で水やりや草取りを継続して行い、猛暑と騒がれていた夏季でしたが、力強い花を咲かせてくれました。

その結果、第三十九回花と緑の環境美化コンクールにおいて、第二部門（地域の部）において「茨城県花き園芸協会会長賞」を受賞することができました。このコンクールは、大好きいばらき県民会議が主催するもので、「潤いある豊かな地域づくりを目指し、花いっぱい運動で素晴らしい成果を挙げている地域・団体・職場・学校」が表彰されるものです。喜ばしいことと感謝しております。

十月には、秋季植栽を行い、今年度から秋季も上大野小学校六年生と共に、千三百株を超えるたくさんの花を植えました。まだ小さな蕾をつけたばかりのビオラが、どんな綺麗な花を咲かせるのかとても楽しみです。



## 3R推進功労者等表彰 受賞「尾崎地区」

### 受賞「尾崎地区」



十月二十五日火曜日、東京・KKRホテル東京において、経済産業省が主催する、3R推進功労者等表彰式で芳香会は会長賞を受賞し、蔬のとう舎ご利用者と職員とで受賞式に参加してきました。

3R推進功労者等表彰は、循環型社会形成に向けて3Rの推進と意識の高揚を図ることを目的に、3Rに率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている個人・グループ・事業所などを表彰する制度です。その制度において、法人一丸となり、リサイクル活動の取り組みを行っていることで、昭和アルミニウム様のご推薦を頂き、今回受賞することが出来ました。



芳香会が取り組むのはエコ・リサイクル活動のみではありません。今回の受賞の際も、「リサイクルでつながる感謝の心」と題して、リサイクルを通してできる地域住民との繋がりをメインテーマとしました。社会福祉法人として、これからの社会において、リサイクル活動のみではなく、エコ・リサイクルを通してできる地域とのつながり、そしてどのような地域貢献が出来るか、を中心に考え、今後とも取り組んでまいります。

3Rとは・・・

「リサイクル」再生利用する

「リユース」再使用する

「リデュース」ゴミを減らす

# 高齢者施設トピックス

## 青嵐荘養護老人ホーム 四十周年を迎えて

養護老人ホームは、昭和四十六年四月一日に芳香会の最初の施設として開設し、今年で四十年を迎えます。しかし、これまでの当施設を知る職員は少ないのが現状です。そこで四十年という大きな節目を迎えるに際して、これまでの歩みを振り返るために記念誌製作を開始しました。現在、利用者・職員の協働で記念誌製作に向けて写真の整理などに取り組んでいます。保管されていた箱から出てきたセピア色の写真には、着物姿で談笑されている方、創作活動や畑仕事、地域の方々と一緒にゲートボールを行っている様子等が写っており、写真から当時の利用者や生活の様子を垣間見ることが出来ます。また、過去の事業計画・報告からは平均年齢や活動内容等、利用者の状況が年々変わってきていることを知る事が出来ます。

これらを整理しながら積み重ねられてきた歴史を感じるとともに、時代に応じた利用者の生活支援を実践していく必要があるということを考えさせられます。時の流れとともに地域や日本だけでなく世界も大きく変化しており、利用者の生活歴や身体状況等も変化しています。措置施設だからこそ、それらを敏感に感じとりながら時代に適した支援を実践していくことが求められているのではないかと考えます。



この記念誌制作は、これまでの養護の歩みを知るだけではなく、地域も意識しながら新たな支援や活動を展開していく、その最初のきっかけとなるよう真摯に取り組んでいきたいと思えます。

## 特別養護老人ホーム 結成四年目『青嵐魂』

特別養護老人ホームにて介護員を中心に結成した『青嵐魂（せいらんたましい）』は、EPA候補生二名を含む総勢二十五名のグループで、今年で結成四年目を迎えます。『青嵐魂』は、これまで様々な施設内行事において独自のよさこいソーランを披露しており、毎回バージョンアップするその演舞で、ご利用者やご家族、職員を感動の渦に巻き込んできました。

昨年からは施設内行事にとどまらず地域行事にも参加しており、今年も十月三十日に結城市アクロスで開催された「祭りゆうき」にメンバー十三名で出場し、ダイナミックなソーラン節ならぬ「青嵐節」を披露して参りました。当日は会場に来ていただいたご利用者やご家族をはじめ、沢山の方々に温かい拍手を頂戴しました。

『青嵐魂』は、地域と芳香会をつなぐ架け橋となることを目指し、今後活動の幅を広げ、また『青嵐魂』を見てくださる方にも一体感を感じていただけるようなオリジナルティを追及していきます。

【みんなを笑顔にしたい】  
を合言葉に、『青嵐魂』はこれからも活動を続けて参ります。



## 青嵐荘ケア・アシスタンス 日常の中のリハビリ

ケア・アシスタンスでは、ご利用者にリハビリテーションを提供し生活の中で行う動作を自分自身で行い続けていく事ができるようにご利用者・職員が協力して日々生活しております。

施設内リハビリスペースにて、理学療法士や作業療法士と共に行うリハビリテーションは、もちろん大切なのですが、それ以外の時間で何も取り組まないのは、せっかくの効果が見られない事になってしまいます。そこで「生活の中にリハビリテーションの視点を取り入れる」ことを心がけ、日頃の活動を行っています。

例として、食事の際に「ご利用者が使用する「エプロン」や「おしぼり」は洗濯・乾燥を済ませた後、数名のご利用者や職員にて一枚ずつ手作業で畳んでいきます。指先を使った作業を行う事は、自分で食べる事や着替えを行う動作につながります。行っているご利用者は時間前から待っており「早く持ってきて。もう始めるんだから。」と楽しみにされている様子です。他にも食器の下膳をや、法人にて取り組んでいる「エコキヤップ」のシールを剥がす事を行っています。

これらの活動は「ケアプラン（施設サービス計画書）」にも反映され、ご本人の生活自体に組み込むよう作られています。ご利用者自身に役割を持って頂き意欲的に生活を送って頂けるよう、これからもご利用者・職員が協力して取り組みを続けていきたいと考えております。





## 一年間の歩み 地域生活定着支援センター



茨城県地域生活定着支援センターは、県から委託を受け、昨年十一月に開設をしてから丸一年が経過しました。

芳香会の四十年の歴史の中で初めて取り組んだ司法福祉の分野の事業は、知識や経験の不足から困難を極めました。関係者のご協力やご理解もあり、何とか運営することができました。この場を借りて関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

また、司法福祉の分野への取り組みが芳香会全体へも波及し、「①協力雇用主としての事業所登録」「②薬物依存リハビリ施設へミーティング会場の提供」「③水戸保護観察所主催の社会貢献活動への協力」をすることにもつながりました。

## 茨城県地域生活定着支援センター 1年間の運営状況 (H22.11.1~H23.10.31)

		開設後の実績		
特別調整 対象者	受付総件数	13件		
	対象者別 内訳	高齢者	高齢 障害者	障害者
		4件	5件	4件
	支援の状 況	コーディネート	フォローアップ	支援終結
1件		4件	8件	
相談支援業務		2件		

このように一年間の活動を振り返った時に、今後の課題として「地域への司法福祉への理解の浸透」ということが挙げられます。

そのため、早稲田大学大学院日本語教育研究科教授の宮崎里司先生をお招きし、「司法福祉講演会」を開催することとなりました。

宮崎先生は、大学院で日本語教育に関する研究に携わるほか、矯正施設（刑務所や少年院）において、外国人受刑者の再犯防止のために、矯正施設内での日本語教育を実践されており、日本語教育の立場からの再犯防止への取り組みについて学び、地域の方々の司法福祉に対する理解を深められればと考えております。ご興味のある方は、ぜひご参加下さい。

### 「司法福祉講演会（罪を犯した人への支援）」

一、日にち

平成二十三年十二月二十三日（金）

二、時間

午後一時 ～ 三時二〇分

三、場所

ネーブルパーク「平成館」

（古河市駒羽根六二〇）

四、内容

①講演「外国人受刑者への支援  
（日本語教育の立場から）」

②地域生活定着支援センター  
活動報告

五、講師

宮崎里司 早稲田大学大学院教授

※詳細は右記参照

六、申込み

地域生活定着支援センター

電話 〇二八〇（九七）二一〇〇



## 3年目の福利厚生 私たちに出来ること



東北の観光産業は、現在復活への取組みが進んでいます。しかし客足が戻った施設はまだわずか、関係者は「来てもらう事が復興につながる」と懸命のPRを続けています。

そこで芳香会では、例年行っている職員福利厚生事業の一環として「東北地方温泉ペアギフト券」を配布しました。ここでは多数の応募の中から当選された職員を代表し、二名の方からの感想を掲載いたします。この事業が、被災地復興の応援の一つになっていたら幸いです。



### 【宮城県 鳴子温泉ギフト券当選】

青嵐荘療護園 櫻井生活支援員

Q 当選した時はどう思いましたか？

A 紅葉を見に行けると思い嬉しかったです。

Q 風評を気にされずに楽しめたようですね。

A 一緒に行かれた方はどんな様子でしたか？

A 息子と行きました。露天風呂も充実して何回も堪能していました。

### 【福島県 東山温泉ギフト券当選】

青嵐荘特別養護老人ホーム 石松准看護師

Q ご家族は何て言いましたか？

A 私自身申込を忘れていて、夫には当選して初めて伝えましたが、喜んでくれました。

Q 一言感想をお願いします。

A ギフト券のお蔭でリッチな気分でした。食事にも、三品プラスしたり、お土産代に回すことが出来ました。本当に有難うございました。



# 芳香会活動報告

## 芳香会社会福祉研究所

芳香会社会福祉研究所では、今年四月に開設して以降、様々な活動を行ってきました。ここではその中でも二つの取り組みについて報告します。

### サマーセミナー

研究所を開設し、プレイベントとして「サマーセミナー」を開催しました。  
テーマは『「檜山節考」考く捨老伝説から日本のコミュニケーションを考える』。芳香会内の社会福祉士を有する職員や、相談援助に従事する職員を対象に実施しました。  
「檜山節考」は、今から五十年以上前に深沢七郎によって著わされた短編小説で、口減らしのために高齢者を檜山に捨てるといふ「姥捨山伝説」をもとにした作品です。参加者はこの短編小説を事前に読んで上でセミナーに参加し、更にこの小説をもとにした映画を全員で鑑賞しました。「姥捨山伝説」から、日本人の有する「地域と個人」に関する価値観について学ぶ機会となりました。



また同時に、芳香会内の社会福祉士が一堂に会する数少ない機会でもあったため、「ソーシャルビジネス」や「社会福祉士の認定制度」の現状について学び、「社会福祉法人のアイデンティティ」や「専門職の育ち方」について考える機会を提供しました。

研修会の最後には夕食を摂りながらのミーティングを行いました。二十二人の参加者がそれぞれに感じたことを話していくうちに、自然と白熱した議論へとつながり、参加した職員にとっても有意義なセミナーとなりました。

### 学会発表

芳香会研究所の徳竹主任研究員が、十月八日・九日、淑徳大学（千葉市）にて行われた「第五十九回日本社会福祉学会秋季大会」にて研究発表を行いました。研究所では開設当初から地域貢献活動に関する研究を行ってきましたが、その研究成果を発表しました。研究所設立の目的である「社会の福祉の向上」のために、今後も研究成果を公の場で発表していきたいと考えております。



### 芳香会スケジュール

一二月	三日	地域づくり講演会 …とねミドリ館
十二月	八日	実務研究発表会 …平成館
十二月十三・四日		第三者委員会 資格取得& 永年勤続者 報奨授与式
十二月 十五日		福利厚生 家族に感謝ディ 内定者親睦会
十二月 十七日		司法福祉講演会
十二月二十二日		…平成館
十二月二十三日		第二回 芳香会献血事業
一月 十一日		

### 編集後記

【福祉法人から発信する地域づくり】をテーマに講演会を開催しました。始めたきっかけは近隣の公道の多くに、草がはえ、林の木々が空間をおおい、かぶす景色を憂いたことからです。自分達が頻りに使用する公道だから、自分達できれいにする。この思いを協働とし活動の輪を広げてゆきます。（光）

「辰」という字は「草木の形が整った状態」を表しているという。「卯年」にも関わらず「震災」で一年早く雨雲の下に顔を出した「辰」が、まもなく主役となる。来年の春には被災地に形の整った草木が芽吹くことを願うばかりである。（酒）  
寒い冬の到来。登山家の話では寒さ対策としてダウンを下に着るとか。また羽毛布団は毛布の下が良いそうです。節電対策、皆さんお試しあれ。（房）



## 社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会  
〒306-0201 茨城県古河市上大野698  
TEL 0280-97-1027(代) FAX 0280-97-1112  
ホームページ <http://www.houkoukai.or.jp> メールアドレス [honbu@houkoukai.or.jp](mailto:honbu@houkoukai.or.jp)

※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。